

9 月 15 日 教育こどもみらい常任委員会
意見陳述

図書館とともだち・鎌倉の阿曾と申します。
本日は当会代表の和田に代わりまして陳述しま
す。
宜しく願い致します。

鎌倉の街づくり全体もそうですが、街づくりの
重要な核の一つである図書館についても、目指
すべき将来像、ヴィジョンが必要です。このこ
とは今回の図書館協議会の答申を受けて痛感し
ているところです。

図書館が個々の施策を実施するうえで、その指
針となるもの、そして施策の成果を検証する目
安となるもの、それが「基本構想」だと思われ
ます。

そういうものが担保されていないが故に、今回
の答申が示す地域館の将来に、疑問や不安を感
じざるをえないのだと思います。

市の図書館が「将来構想」にあたるものを何も
持っていないわけではありません。

平成 26 年 4 月に策定された『第 2 次鎌倉市図
書館サービス計画』の冒頭に、この計画の基本
目標となるものが掲げられています。それは、

1. 図書館は生涯学習の拠点になります。
2. 鎌倉ならではの図書館をめざします。
3. 市民とともに図書館を創ります。

という 3 つの大きな目標です。

そして、それぞれの目標に関する簡単な説明文
が添えられています。

この三つの目標については、内容的に全く異存
はありません。

ただ、この三項目で足りるのか？ 検討の余
地はあると思います。

また、それぞれの目標について、もっと肉付け
が必要なのではないかと感じます。

昨年の夏、新学期を迎える時期に「学校へ行く
のがつらいときは図書館へ」という主旨のツイ
ートを鎌倉市の図書館が発信して全国的な話題
になりました。

図書館というところは、老若男女を問わず、い
つでも気軽に自由に出入りできる場所です。
事前の予約などは不要です。料金もかからず、
思いついたらふらっと寄ることができる場所
であり、何時間いても咎められることのない場
所です。

図書館というと昔は学生が勉強しに来るところ
というイメージが強かったと思いますが、時代
や社会環境の変化とともに、年代を問わず、様
々な利用の仕方がされるようになりました。

「生涯にわたっての学びを支え、多様で魅力的
な資料・情報を提供する」とともに、「過ごしや
すい空間」あるいは「居場所としての機能」も
求められています。

基本目標の 2 番目に「鎌倉ならではの図書館」
として近代史資料を整備し公開すると解説され
ていますが、近年では鎌倉市の公文書整理や市
史編さんの仕組みづくりを行うなど、図書館は
文字通り「歴史と文化の街づくり」の重要な一
角を担っています。学校図書館の蔵書のデータ
ベース構築の支援も期待されます。

また、鎌倉という地域の特色として、様々な分
野での人材が豊富であるということが言える
と思います。学者・研究者、あるいは文学・音楽・
美術などの芸術家、そして多くの文化的な活動
をしている NPO があります。様々な分野の専
門家や団体の協力を得て、図書館が文化的活動
の拠点としての役割を果たすことができれば、
それも「鎌倉ならではの図書館」としてのアピ
ールになるのではないのでしょうか。

さらに、基本目標の 3 番目にあるように、図書
館が「地域コミュニティの核」として利用者や
ボランティア、地域の市民活動グループなどの

交流を推進する機能を果たすためには、施設・設備の改修・改築など、ハード面の整備もなされなくてはなりません。中央館は建てられてから約40年経っています。地域館も1980年に開設した深沢図書館をはじめ、狭小であったり、経年劣化が見られる館があります。

ハード面の整備はハードルが高いが故に、5年を目安とする第2次サービス計画では触れられていませんが、より長期的な観点に立つなら、避けて通れない課題だと思います。

そして重要なのは、目標を実現するための運営体制です。

図書館の基本要素として「資料、人、施設」の三つがあげられますが、運営体制を考えると、三つの要素のうちの「人」、つまり職員体制が重要なポイントになります。「人」がいなければ図書館を始めることができませんし、資料や施設が抱える厳しい課題の多くは、「人」つまり司書の技術や知恵や熱意で補充することが可能だからです。

鎌倉市は、図書館で働く司書を技術職員として、つまり専門職として目的採用をしてきた歴史があります。司書資格を有し、経験豊富な職員集団があつてこそ、これまでの鎌倉市の図書館の発展もあつたと言って過言ではありません。

先ほど触れたツイートも公共図書館の役割を熟知した司書ならではの発信だと思います。

その専門職体制が今や危うくなっています。ここ20年(!)、司書の新規採用がなされていません。年々、正規職員が減り、反比例して非常勤嘱託員が増加しています。そのような動きの延長に、今回の図書館協議会の、地域館の運営を非常勤嘱託員中心の運営に、という答申があるものと思われます。

鎌倉図書館のリーダーである図書館長も、2001年度以降は、行政職の館長が短期間で入れ替わるという状態が続いています。何十年という歴史を重ねて専門性を育み、仕事のノウハウ

を蓄積し、厚みのある図書館サービスを市民に提供してきた、その職員体制、ひいては運営体制が崩壊するのではないかという不安を覚えます。

施設の整備とか運営体制の在り方については基本目標と同列のレベルのものではないのかもしれませんが、この部分がしっかりしたものにならないと、基本目標も絵に描いた餅になりかねません。

市の公共施設再編計画でも、図書館は「拠点校に併設する複合施設の一機能」という位置づけになっています。その計画との関係を考えても、これまで積み重ねられたものを壊すのではなく、発展させる方向で、よりしっかりとした運営体制を構築することが求められていると考えます。

最後にプロジェクトについてですが、本来ならば図書館協議会が担うべきところかもしれません。しかし、人数的にもメンバー構成的にも不足していると思われます。

図書館協議会の強化は、それはそれで喫緊の課題ですが、基本構想の策定については、それを目的とした委員会を設置する必要があると思います。

この委員会には図書館の専門家や利用者、市民を代表する人を中心に構成すべきと考えます。また、策定に当たっては、市民ニーズの把握を丁寧やってほしいと思います。図書館を利用している人、していない人、今は図書館を利用しなくなった人などに、図書館をどう思っているか、どのような要望を持っているのかなどを、紙のアンケートだけでなく直接聞き取りするくらいの調査を希望します。

手間暇かかる作業ですが、図書館友の会として、私たちの会も喜んでこれに協力したいと考えています。

陳述は以上です。

ありがとうございました。